



貫閲講堂の保存活用に関する 請願書を採択しました

請願名

貫閲講堂の保存活用に関する請願書

Q どんな請願なの？

A

笠岡小学校の敷地内にある貫閲講堂は、現在老朽化等のため使用が休止されています。執行部からは解体も視野に入れているという説明も受けているところです。

この度、有効な保存活用の検討をしていただくための請願書が市民から提出され、議会として「登録文化財と耐震の問題、費用に対する考え方、市民の思い等には地域によって温度差があることも十分考慮し、過去の経緯だけでなく、笠岡中心市街地の展望を考えたいうえで、残すのか壊すのか、これからの笠岡市のため、広く市民の意見をいただきながら、執行部に対し総合的に検討するよう要望する」として、請願書を採択しました。

紹介議員からの説明、請願者からの発言と委員の意見は次のとおりです。

紹介議員
から

貫閲講堂は、昭和17年に佐藤貫一氏及び有志の寄附により、木造二鉸式トラス構造という高度な建築技術で建設された、公共性の高い建物である。

建物は、笠岡小学校だけでなく市民会館ができるまで、市民活動の場として笠岡の歴史を築いてきたが、現在、建物の耐震基準を満たしておらず、倒壊の危険性が高いと診断され利用できない状況である。

執行部からは解体する話が出ているが、壊すにしても、残すにしても、笠岡の文化のシンボルとして笠岡のまちづくりに重要な建物であるので、広く様々な専門家等からのご提案や、市民の意見をいただきながら、市民にとって有効な形での保存及び活用について、しっかり検討していただきたい。

請願者
から

笠岡の歴史文化に関するアンケートで、継承していく必要があると思われる方が90%を超えており、笠岡市が歴史文化を生かしたまちづくりを目標として掲げられているとおり、貫閲講堂は、この基本方針に基づき歴史的価値のある建物として、保存活用をするべきと考える。

しかし、耐震診断した会社によると、耐震工事には多額の費用がかかり、外観も変わることから解体の話になったと仄聞しており、壊すことからではなく、また、存続させるにしてもその活用について、今一度いろいろな方向から検討した案をいただき、皆さんで協議し進めていただきたい。

委員の
意見

◇今後どうしてもraitたいのか。外観だけでも残してもらいたいのか。外観は残さずとも寄附者の佐藤氏の思いをくんだ、別の形で残すことにするのか。もしこのまま保存するとすれば、保存にかかる多額の費用をどう工面するのか。財政的に厳しい状況であり、クラウドファンディングなど寄附対応にするのか。

◇施設の長寿命化のため、今まで貫閲講堂に対して多額の修繕を行っており、もっと早く考えるべきであった。

◇もっと具体的に現実味のある話として、みんなで話し合う必要があり、このままでは判断できない。